

---

# 英雄に惹かれた者

インベクティブS

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

英雄に惹かれた者

### 【Nコード】

N2007Z

### 【作者名】

インベクティブS

### 【あらすじ】

タイトル通りなので見た方が早いかと  
というか、あらすじが書けない

**(前書き)**

ご指摘などがあれば遠慮なくしてください

とある世界のとあるごく平凡な酒場で私はとある青年、英雄と酒を飲み交わし、そして語り合っていた。

「なんてことはない、あれは小さな、小さな戦いだっただけど、俺の心の中にはデツカク残っている・・・そういう戦いだっただ」

白いオールバックに右手の薬指に指輪を填めている青年がグラスを片手に笑みを浮かべながら語り始める。

大切そうにそして楽しそうに話を続けていく、しかし話を聞いていると時々表情が一瞬だけ辛そうになるがすぐにまた笑顔に戻る。

私は何故かどうしてもいてもたってももらえないほど気になり、辛そうな顔になる理由をつつこんで聞いてみると

「ああ・・・これを思い出すと何時も思うんだよ・・・俺がもつと有能で気遣いも出来る奴なら・・・ああいう結末にはならなかったんじゃないかねかってよ・・・ホント、後悔先に立たずだったな」

暗く沈んだ表情でそう答えてくれた。

おそらくその時、私はばつの悪そうな、かける言葉が見つからなかった時の顔をしていただろう。

そんな私の表情を見てすぐに、彼は笑みを浮かべながら私と自分のグラスに透明な液体を瓶から注ぐ。

「まあ、気にすんなって、それよりか先を話すぜ？」

そう片目を瞑りながら軽い口調で言って再び話を再開した。

彼の何処が気遣いの出来ない男なのだろうか・・・  
そんな事を思いつつもそのまま彼の話に耳を傾け、そして相づちを打つ。

そして瓶が十数本、いや数十本空いたぐらいであろうか

「っとまあ、こんな感じだな・長い昔話に付き合ってくれてありがとよ」

その言葉と共にグラスの中身を一気に飲み、それからグラスをテーブルに置いた。

そして椅子から立ち上がり、私にあの笑顔と共に

「俺さ、これから仕事が入ってるから今日はここまでなんだよ、また機会があれば会おうぜ」

との言葉をかけ、そのまま酒場のマスターに視線を向けて

「ツケで頼むわ、こいつの分も宜しく」

と言つて、そのまま酒場を軽やかな足取りで出ていった。

後には空になった酒瓶と少し頬が赤くなっている私が残された。

因みに、これらの酒瓶は殆ど彼が飲み干している、どれだけ酒に強いのだろうか気になるが、それを確かめようとした際には確かめる前に財布がパンクしてしまいそうだから恐ろしい。

そして、その場に残された私はある思いに駆られていた。

あの英雄が聞かせてくれた話を誰かに伝えたいと

悲しく、しかし思いやりに溢れていた話を伝えなくてはならないとその衝動に従い、私は少しふらつきながらも酒場を出て家に直行、紙にその話を唸りつつも書き始めたのである。

その題名は「とある小さな戦争」

これを寝る間も惜しみ、必死に書き終えた後に私はその場につっぱして寝てしまい、紙を駄目にしてしまったのは秘密である。

そしてなんやかんやで書き終えた私が次に思った事はさて、これを誰かに伝えていこう、少しずつで良いからあの英雄の戦いを知っていつてくれれば私は満足なのだから。また沸き上がる思いに従って行動したのである。

事実、この後の人生はこの話を広めることに力を注いだ、どれだけ広まったかは知らないが少なくとも私の身近な人物達には広まっている。

私は満足だ、我が人生に一遍の悔いなしと何処かで見たことあるがきつとこういう事であろう。

そして私はもう眠ろうと思う、あの話を聞いて、酒場で動き始めてからずっと私は動き続けた、だから休憩をとるのだ。

またあの英雄と会える日が来るのかもしれない、その時の為に備えて。

こう考えながら、私はベットの上で目をゆっくりと閉じた。

(後書き)

どうだったでしょうか、少しでも楽しめたのなら幸いです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2007z/>

---

英雄に惹かれた者

2011年12月7日06時47分発行